

# Verification of Reliability and Validity of the Development of Growth Motivation Scale for Nurses

新, 裕紀子

<https://hdl.handle.net/2324/4474995>

---

出版情報 : Kyushu University, 2020, 博士 (看護学), 課程博士  
バージョン :  
権利関係 :

氏 名：新 裕紀子

論 文 名：Verification of Reliability and Validity of the Development of Growth Motivation Scale for Nurses

(看護師の成長動機づけ尺度開発へ向けた信頼性と妥当性の検証)

区 分：甲

## 論 文 内 容 の 要 旨

### 【目的】

看護師の成長に向かう動機づけの質的研究結果(新ら, 2019)をもとに、看護師の成長というダイナミックな変化を捉えた成長動機づけ尺度 (Growth Motivation Scale for Nurses: GMSN) の作成に向けて、質問項目を作成・選定し、構造モデルの検証を行う。

### 【研究の仮説構造モデル】

質的研究結果を基に作成した看護師の成長動機づけの仮説構造モデルは、連続した4つの階層構造であり、各層にはそれぞれ認知と行動の2つの次元を有する(図1)。

### 【研究方法】

#### 1. 尺度項目の作成

質的研究結果においてカテゴリを形成する主となるコードから尺度原案30項目を作成した。その後、看護管理の専門家4名を含めて内的妥当性を評価した。また、パイロットスタディ及びプレテストを実施し、最終的に30項目5段階リッカートスケールを用いた尺度案を作成した。

#### 2. 質問紙の構成

①対象者の基本属性：性別、年代、臨床経験年数

②看護師の成長動機づけ尺度案30項目：看護師が自己の成長に向けてどの程度前向きに進んでいるのかを主観的に評価することのできる尺度として作成した。4つの層に認知と行動の2つの次元を有する構成で、30項目5段階リッカートスケールである。

③多側面ワークモチベーション尺度(以下MWMと略す)：池田&森永(2017)によって作成された尺度で、達成志向、競争志向、協力志向、学習志向の4側面の36項目5段階リッカートスケールで構成されている。この尺度では4因子構造の再現性および再検査による時間的安定性が確認されている。今回は併存妥当性の評価目的で使用した。

3. 調査対象及び対象者の抽出方法：日本医療機能評価機構の認定病院にスタッフとして勤務する看護師で、層化無作為抽出法を用いた。

4. 調査方法及び調査期間：無記名自記式の質問紙を用い、郵送調査法で実施した。調査期間は2020年2月～3月である。

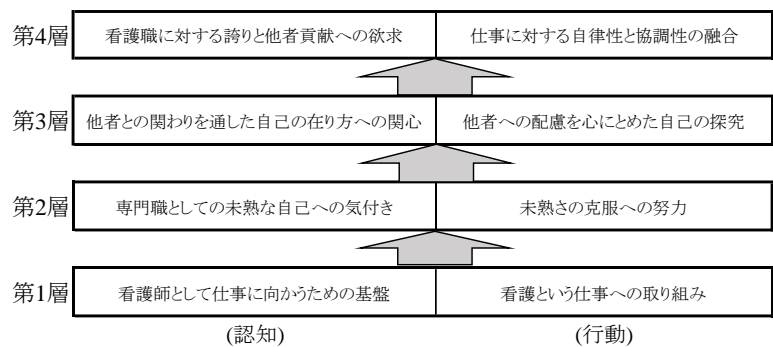


図1.看護師の成長動機づけ尺度の仮説構造モデル

5. 分析方法：構成概念妥当性の検証には探索的因子分析、信頼性の検証には Cronbach' s  $\alpha$  係数、仮説構造モデルの検証には共分散構造分析による適合度測定、併存妥当性の検証には MWM との相関、対象者の基本属性には記述統計、Kruskal-Wallis test を実施した。

6. 倫理的配慮：九州大学医系地区部局臨床研究倫理審査委員会の承認を受けた(番号：2019-532)。

#### 【結果】

全国の 18 施設に 1481 部配布し、635 部の回収(回収率 43%)、有効回答数 607 部(有効回答率 96%)であった。対象の性別は女性 559 人(92.1%)、男性 48 人(7.9%)であった。年代は 20~24 歳から 55 歳以上までの 5 歳区分で、M 字曲線の構成であった。臨床経験年数は平均(SD)=14.9(10) 年であった。

看護師の成長動機づけ尺度案 30 項目の I-T 相関は 0.28~0.75、得点分布に天井効果・フロア効果は認めなかったため、30 項目すべてを分析対象とし、探索的因子分析(主因子法プロマックス回転)を行った。因子数はスクリープロットの傾きから判断した。因子負荷量が 0.4 未満である項目を削除し、最終的に 24 項目 4 因子構造が確認された。第 1 因子は【自律的組織貢献】で、自律的な学習や組織への貢献への思いからなる動機づけの項目で構成されており、仮説構造モデルの第 4 層に相当する因子であった。第 2 因子は【個人のレディネスと職場環境資源の豊かさ】で、学問や人に対する興味関心と個人を支える職場環境の充実からなる動機づけの項目で構成されており、仮説構造モデルの第 1 層に相当する因子であった。第 3 因子は【他者を意識した自己調整】で、他者との関わりを意識していく中で相手への配慮や内省を深めていく動機づけの項目で構成されており、仮説構造モデルの第 3 層に相当する因子であった。第 4 因子は【後悔から生じる目標】で、未熟さや失敗を悔しく思い、その悔しさを乗り越えていこうとする動機づけの項目で構成されており、仮説構造モデルの第 2 層に相当する因子であった。Cronbach' s  $\alpha$  係数は、0.90~0.74 であり、尺度全体は 0.92 であった。

仮説構造モデルの適合度は、GFI : 0.84、AGFI : 0.81、CFI : 0.84、RMSEA : 0.08 であり、パス係数はすべて有意であった。GMSN と MWM との尺度総得点の平均及び下位尺度間相関はすべて有意であり、相関関係が認められた。

対象者の年代と GMSN との関連では、20~24 歳と 45~49 歳との間で有意差が生じていた(尺度総得点の平均が 45~49 歳が有意に高い)。

#### 【結論】

看護師の成長動機づけ尺度(GMSN)の探索的因子分析では、24 項目 4 因子構造であった。尺度全体の Cronbach' s  $\alpha$  は 0.92 と高く、MWM との併存妥当性も確認できた。また、仮説構造モデルの適合度は許容範囲にあるものと判断でき、信頼性及び妥当性ともに良好であると判断した。